

**FutureNet CMS-1300**  
**ユーザーズガイド（管理者編）**  
**Ver.2.0.0 対応版**



1.	はじめに .....	4
1.1.	用語 .....	4
2.	本装置の概要 .....	5
2.1.	各部の名称と機能 .....	5
2.1.1.	製品前面 .....	5
2.1.2.	製品背面 .....	8
2.1.3.	本体 HDD ストレージ .....	9
2.1.3.1.	HDD の構成 .....	9
2.1.3.2.	HDD の監視 .....	10
2.1.3.3.	HDD の操作権限 .....	10
2.2.	本装置のスイッチ操作 .....	11
2.2.1.	本装置の起動 (通常起動・Init スイッチによる起動) .....	11
2.2.2.	本装置の停止 (正常終了・強制終了) .....	12
2.2.3.	USB フラッシュメモリの接続・取り外し .....	12
3.	ログイン .....	13
3.1.	本装置へのログイン方法 .....	13
3.2.	ログイン画面 .....	15
3.2.1.	ログイン成功 .....	16
3.2.1.1.	セッション .....	16
3.2.2.	ログイン失敗 .....	17
4.	画面仕様 .....	18
4.1.	システム .....	18
4.1.1.	システム情報 .....	19
4.1.1.1.	システム基本設定 .....	19
4.1.1.2.	システム状態 .....	20
4.1.1.3.	内部ストレージ情報 .....	23
4.1.1.3.1.	HDD の交換手順 .....	25
4.1.1.3.2.	HDD の復旧手順 .....	29
4.1.2.	ネットワーク I/F .....	30
4.1.2.1.	項目追加 .....	31
4.1.2.1.1.	項目：アドレス .....	32
4.1.2.1.2.	項目：インターフェース ID .....	33
4.1.2.1.3.	項目：ルーティング .....	34
4.1.2.1.4.	項目：MTU .....	35
4.1.3.	DNS サーバアドレス .....	36
4.1.3.1.	DNS サーバアドレス設定 .....	36
4.1.3.2.	DNS サーバアドレス設定 .....	36
4.1.4.	時刻設定 .....	37
4.1.4.1.	CMS システム時刻 .....	37
4.1.4.2.	NTP 設定 .....	38
4.1.4.2.1.	NTP 状態 .....	38
4.1.5.	SYSLOG .....	39
4.1.5.1.	CMS SYSLOG 設定 .....	39
4.1.5.2.	CMS SYSLOG ファイル .....	40
4.1.6.	SNMP .....	41
4.1.6.1.	SNMP エージェント設定 .....	41
4.1.7.	テナント管理 .....	42
4.1.7.1.	テナントデータのインポート .....	43

4.1.7.2.	テナントの追加 .....	44
4.1.7.3.	テナント情報の編集 .....	45
4.1.7.4.	テナント情報の削除 .....	46
4.1.8.	システムデータ .....	47
4.1.8.1.	CMS システムデータの退避と復帰 .....	47
4.1.8.1.1.	本体 USB ストレージ (all) .....	48
4.1.8.1.2.	本体 USB ストレージ (core) .....	49
4.1.8.1.3.	本体 HDD ストレージ (all) .....	50
4.1.8.1.4.	本体 HDD ストレージ (core) .....	52
4.1.8.2.	初期化 (CMS データ・本体 USB ストレージ) .....	54
4.2.	ログ .....	55
4.2.1.	ログ検索条件ダイアログ .....	56
4.3.	アカウント .....	57
4.3.1.	アカウント情報 .....	57
4.3.2.	ログインパスワード変更 .....	57
5.	Appendix .....	58
5.1.	サポートについて .....	58
5.2.	工場出荷設定値 (初期値) .....	59
5.3.	イベントログ一覧 .....	60

## 1. はじめに

本書は、FutureNet CMS-1300 のユーザーズガイド(管理者編)です。  
CMS-1300 の機器管理に必要な項目、および admin アカウントが必要な設定項目について記載しています。  
それ以外の項目については、ユーザーズガイド(テナント編)を参照してください。

### 1.1. 用語

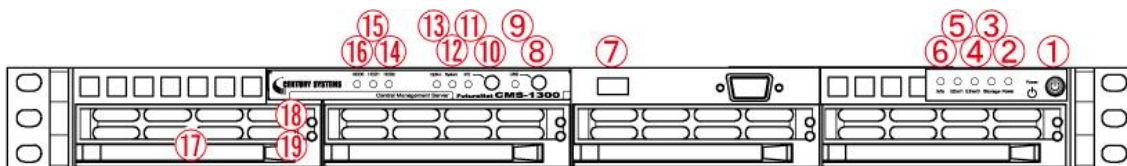
本書で使用する用語です。

CMS	FutureNet CMS-1300
NXR	FutureNet NXR シリーズ

## 2. 本装置の概要

### 2.1. 各部の名称と機能

#### 2.1.1. 製品前面



LED の表示は、● (消灯)、● (点灯)、\* (点滅) を示します。

① Power スイッチ	<p>停止中 (スタンバイ状態) に Power スイッチを押すと、システムが起動します。</p> <p>ただし、通電開始直後は、30 秒以上待ってから、Power スイッチを押してください。</p> <p>起動中に Power スイッチを押すと、終了処理を行いスタンバイ状態に移行します。</p> <p>詳細は「2.2 本装置のスイッチ操作」を参照してください。</p>	
② Power LED	本装置の起動中	●
	停止中 (スタンバイ状態)	●
③ Storage LED	内部ディスクへのアクセス時	*
④ Ether0 LED ⑤ Ether1 LED	対応する Ethernet ポートの状態を表示します。	
	Link Down	●
	Link Up	●
	通信中	*
⑥ Information LED	電源ユニットの異常時や、温度やファン異常時に、点滅または点灯します。	*/●
⑦ USB ポート	USB フラッシュメモリを接続します。	
⑧ USB スイッチ	USB フラッシュメモリを取り外すときに使用します。 詳細は「2.2 本装置のスイッチ操作」を参照してください。	
⑨ USB LED	USB フラッシュメモリの接続状態を表示します。	
	未接続時	●
	接続時	●
⑩ Init スイッチ	<p>admin パスワードを忘れた場合などに使用します。</p> <p>システム起動時 (通電開始時、または Power スイッチ押下時) に、本スイッチを約 3 秒間押し続けると、Init LED が点灯します。</p> <p>Init LED が点灯した際は、admin パスワードや IP アドレスなどが初期化された状態でシステムが起動します。</p> <p>詳細は「2.2 本装置のスイッチ操作」を参照してください。</p>	
⑪ Init LED	Init スイッチによる起動時	●
	詳細は、次項を参照してください。	
⑫ System LED	機器の状態を表示します。 詳細は、次項を参照してください。	
	システム起動中 (ログイン可能状態)	●
⑬ Option LED	本バージョンでは使用しません。	

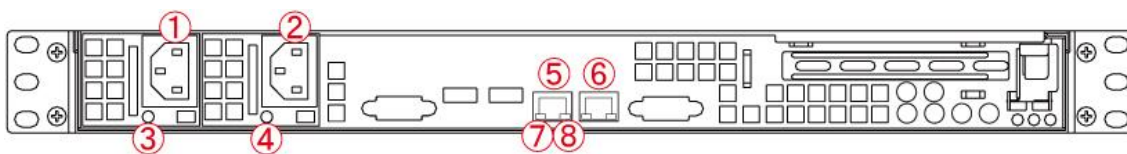
⑭ HDD2 LED ⑮ HDD1 LED ⑯ HDD0 LED	ディスク 2、ディスク 1、ディスク 0 の装着状態を表示します。 HDD の構成は「2.1.3.1 HDD の構成」を参照してください。	
	装着済 (raid)	●
	装着済 (spare)	●
	装着済 (-)	*
	未装着 (または不明)	●
⑰ RAID (HDD ベイ)	前面に 4 個の HDD ベイを配置しています。 詳細は「2.1.3.1 HDD の構成」を参照してください。	
⑱ Activity LED	各 HDD ベイに、装備しています。	
	アクセス時	●
⑲ Fail LED	各 HDD ベイに、装備しています。 異常が発生した場合は、該当する HDD ベイの Fail LED が点灯 (または点滅) します。	
	正常時	●
	故障時	●
	rebuilding 時	*

- 本装置の動作と LED (System LED と Init LED) の表示関係

本装置の動作 (本装置の状態)	LED の表示		備考
	System LED	Init LED	
停止中 (スタンバイ状態)	●	●	—
機器起動 (起動処理中)	●	●	約 1 秒間
	●	●	約 60 秒間 (工場出荷状態の場合)
機器再起動 (再起動処理中)	*	●	約 2 秒間
	●	●	約 1 秒間
	●	●	約 60 秒間 (工場出荷状態の場合)
機器停止 (停止処理中)	*	●	約 10 秒間
Init スイッチによる起動 (起動処理中)	●	●	約 1 秒間
	●	●	約 3 秒間
	●	●	約 60 秒間 (工場出荷状態の場合)
起動処理完了 (ログイン可能状態)	●	●	—
ハードウェア異常	**	**	—

※ LED の表示は、● (消灯)、● (点灯)、\* (点滅)、\*\* (高速点滅) を示します。

## 2.1.2. 製品背面



① 電源ケーブル差込口 ② 電源ケーブル差込口	付属の電源ケーブルを接続するコネクタです。 電源ケーブルは必ず付属のものを使用してください。 本装置は、電源ユニット（400W）を2個搭載しています。	
③ 電源ユニット・ステータス LED	機器起動時	●
④ 電源ユニット・ステータス LED	停止中 (スタンバイ状態)	●
⑤ Ether0 ポート ⑥ Ether1 ポート	10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T 対応の Ethernet ポートです。	
⑦ Activity LED	Ethernet のリンク状態を示します。	
	Link Down	●
	Link Up	●
通信中	*	
⑧ Speed LED	Ethernet のリンク状態を示します。	
	未接続	●
	10BASE-T モード	●
	100BASE-TX モード	●
1000BASE-T モード	●	

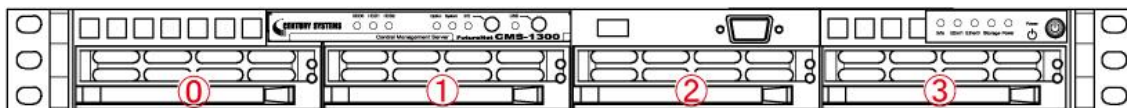


### 2.1.3. 本体HDDストレージ

CMSは本体内部のHDDストレージを使用します。

#### 2.1.3.1. HDDの構成

CMSの本体HDDストレージの構成について示します。



番号	①	②	③	
物理ポート	port 0	port 1	port 2	blank
UIの表示	ディスク 0	ディスク 1	ディスク 2	-
属性	raid	raid	spare	-

※ 「blank」は、HDDなしのロットです。

※ 属性は、工場出荷状態の値です。

※ CMSのHDD構成は、raid（2台）とspare（1台）の構成が正常な状態です。

工場出荷設定の状態では、本体HDDストレージが正常動作している場合、「ストレージ状態」は、次のように表示されます。

システム    テナント    機器一覧    ログ    アカウント

システム情報

ネットワークIF

DNSサーバアドレス

時刻設定

SYSLOG

SNMP

テナント管理

システムデータ

内部ストレージ情報

状態    S.M.A.R.T情報 (ディスク0)    S.M.A.R.T情報 (ディスク1)    S.M.A.R.T情報 (ディスク2)

ストレージ状態

RAID状態: OK

スペア状態: OK

ディスク0状態: OK (raid)

ディスク1状態: OK (raid)

ディスク2状態: OK (spare)

ディスク番号    0

### 2.1.3.2. HDDの監視

本体 HDD ストレージのステータスを、定期的に監視（60 秒周期で監視）しています。HDD に異常が発生した場合、また HDD が異常状態から復旧した場合、当該イベントをイベントログに表示します。

分類	日時	発行元	対象	イベント
情報	2020-07-02 11:49:31	ユーザ:admin	CMS	ログイン(192.168.0.1)
エラー	2020-07-06 10:48:57	CMS:CMS	CMS	DISK エラー発生(disk1 status:NOT-PRESENT)
情報	2020-07-06 10:50:57	CMS:CMS	CMS	DISK エラー復旧(disk1 status:OK)
<b>HDD に異常が発生した場合</b>				
DISK エラー発生(ディスク番号 : status : HDD のステータス)				
<b>HDD が異常から復旧した場合</b>				
DISK エラー復旧(ディスク番号 : status:OK)				

### 2.1.3.3. HDDの操作権限

「admin アカウント」および「テナントアカウント」が実行できる本体 HDD ストレージに関する操作は次のとおりです。

操作内容	admin アカウント	テナント アカウント
内部ストレージ情報の状態表示	○	×
スペア作成	○	×
ディスク削除	○	×
HDD ストレージ (all/core) へ CMS データの退避	○	×
HDD ストレージ (all/core) から CMS データの復帰	○	×
CMS データ (all/core) のダウンロード	○	×
CMS データ (all/core) のアップロード	○	×
HDD ストレージへ テナントデータの退避	×	○
HDD ストレージから テナントデータの復帰	×	○
テナントデータのダウンロード	×	○
テナントデータのアップロード	×	○

## 2.2. 本装置のスイッチ操作

本装置のスイッチ（Power スイッチ、Init スイッチ、USB スイッチ）を伴う操作について説明します。

### 2.2.1. 本装置の起動（通常起動・Initスイッチによる起動）

#### ● 通常起動

- ・ 本装置が停止状態（スタンバイ状態）であることを確認します。
- ・ 前面の「Power スイッチ」を押下すると、システムが起動します。  
※ 通電開始直後は、30 秒以上待ってから、「Power スイッチ」を押下してください。
- ・ 起動が完了すると、前面の「System LED」が点灯（●）します。

#### ● Init スイッチによる起動（admin パスワードを忘れた場合）

- ・ 本装置が停止状態（スタンバイ状態）であることを確認します。
- ・ 「Init スイッチ」を押しながら（押したままの状態）、「Power スイッチ」を押下します。
- ・ 約 3 秒後に「Init LED」が点灯（●）します。「Init LED」の点灯を確認してから、「Init スイッチ」を放します。
- ・ 本装置の起動が完了すると「System LED」が点灯（●）します。  
※ admin パスワード、およびインターフェースの設定は、工場出荷設定値です。

Init スイッチによる起動は、admin アカウントのパスワードを忘れてしまった場合の救済策です。

そのため、一部の設定（admin アカウントのパスワード、およびインターフェースの設定）に、工場出荷設定値を使用して起動します。

通常起動の場合と異なる点を以下に示します。

#### ✓ admin アカウントのパスワード

Init スイッチによる起動	工場出荷設定値「admin」を使用します。
次回の通常起動	工場出荷設定値「admin」のままです。 パスワードの変更は、「アカウント」画面で設定します。

#### ✓ インターフェースの設定

Init スイッチによる起動	インターフェースの設定は、工場出荷設定値を使用します。	
	Ether0	192.168.0.254/24
	Ether1	設定なし
次回の通常起動	インターフェースの設定は、「ネットワーク I/F」の設定値を使用します。	

#### ✓ その他の設定

Init スイッチによる起動	その他の設定（テナントデータ等）に、変更はありません。
次回の通常起動	その他の設定（テナントデータ等）に、変更はありません。

### 2.2.2. 本装置の停止（正常終了・強制終了）

- 正常終了

- 本装置の稼働中に、前面の「Power スイッチ」を短時間押すと、シャットダウン処理を開始します。
- シャットダウンが完了すると「Power LED」が消灯（●）します。

- 強制終了

- 本装置の稼働中に、前面の「Power スイッチ」を4秒以上押すと、強制終了します。
- システムが停止すると「Power LED」が消灯（●）します。

※ シャットダウン処理を実施しないため、本装置がハングアップした時などの非常時のみに実行するようにしてください。

### 2.2.3. USBフラッシュメモリの接続・取り外し

- USBフラッシュメモリの接続

- USBポートに、USBフラッシュメモリを接続します。
- USB LEDが、消灯（●）→点灯（●）します。

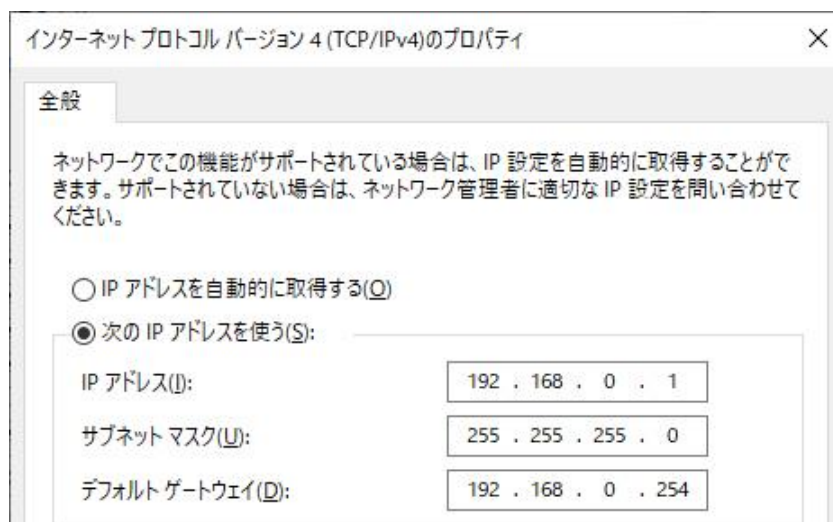
- USBフラッシュメモリの取り外し

- USBスイッチを押下します。
- USB LEDが、点灯（●）→消灯（●）します。
- USBフラッシュメモリを安全に取り外すことができます。

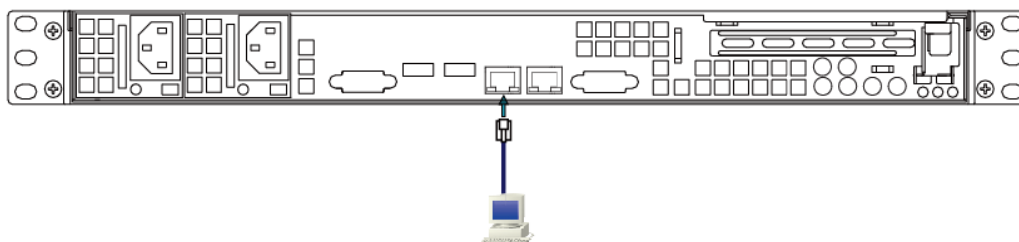
### 3. ログイン

#### 3.1. 本装置へのログイン方法

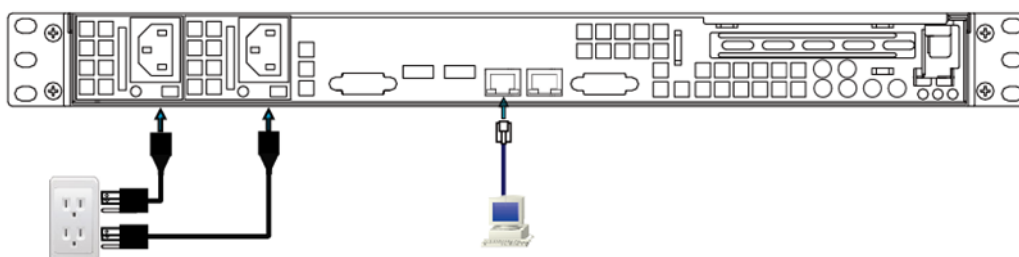
- ① PC の IP アドレスとサブネットマスクを以下のように設定します。



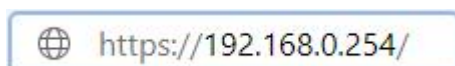
- ② 本装置の Ether 0 ポートと PC を LAN ケーブルで接続します。



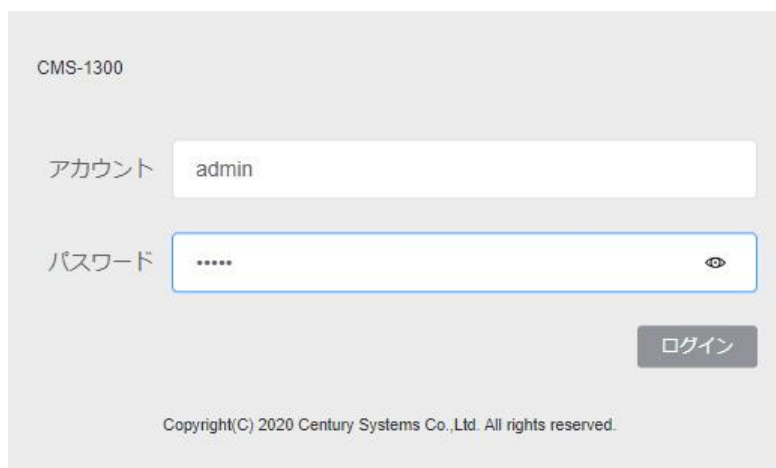
- ③ 本装置と電源ケーブル、電源ケーブルとコンセントを接続します。  
通電開始から 30 秒以上経過した後、前面の Power スイッチを押して本装置を起動します。前面の Power LED が点灯 (●) します。  
本装置の起動が完了すると、前面の System LED が点灯 (●) します。



- ④ PC の Web ブラウザを開いて、アドレスバーに次のように入力します。



- ⑤ ログイン画面が表示されます。  
アカウント (admin) とパスワード (admin) を入力して「ログイン」をクリックします。



- ⑤ ログインに成功すると、以下の画面が表示されます。



分類	日時	発行元	対象	イベント
接続	2020-07-01 14:25:59	ユーザ:admin	CMS	ログイン(192.168.0.1)

以上で、本装置へのログインは完了です。

### 3.2. ログイン画面



① 「ロゴ画像」

本装置のロゴ画像を表示します。

② 「アカウント」

アカウントを入力します。

③ 「パスワード」

パスワードを入力します。

④ 「ログイン」

アカウントとパスワードの入力後に、「ログイン」をクリックします。

### 3.2.1. ログイン成功

ログインに成功すると、下記の画面が表示されます。

The screenshot shows the FutureNet CMS-1300 Central Management Server interface. At the top, there are navigation tabs: 「システム」 (System), 「テナント」 (Tenant), 「詳細一覧」 (Detailed List), 「ログ」 (Log), and 「アカウント」 (Account). The 「テナント」 tab is selected and highlighted with a red box and circled as ①. To the right, there are dropdown menus for 「テナント」 (Tenant) showing 'admin' (circled as ②) and 「アカウント」 (Account) showing 'admin' (circled as ③). A 「ログアウト」 (Logout) button is circled as ④. The main content area is divided into two panels. The left panel shows system basic settings for 'CMS-1300'. The right panel shows system status, including serial number, version, loadavg, uptime, and memory usage. Below these panels is a table titled 「テナントイベントログ」 (Tenant Event Log) with columns for 「分類」 (Category), 「日時」 (Date/Time), 「発行元」 (Source), 「対象」 (Target), and 「イベント」 (Event). A single log entry is visible, circled as ⑤.

分類	日時	発行元	対象	イベント
情報	2020-07-06 11:21:18	ユーザ admin	CMS	ログイン(192.168.0.1)

#### ① 「メインタブ」

「システム」、「ログ」、「アカウント」タブを表示します。

#### ② 「テナント」

admin アカウントでログインした場合にのみ表示されます。

操作・監視を行うテナントをプルダウンから選択します。表示ラベルはテナント名称です。テナント名称が未設定の場合は、テナントコードを表示します。

#### ③ 「アカウント」

現在ログイン中のアカウントを表示します。

#### ④ 「ログアウト」

ログアウトします。セッションを終了して、ログイン画面に戻ります。

#### ⑤ 「テナントイベントログ」

テナントについて発生したイベントを表示します。

直近の 30 件を表示します。

### 3.2.1.1. セッション

ログインすると、CMS とクライアント（ブラウザ）間で、セッションを開始します。

ログアウトをクリックすると、セッションを終了してログアウトします。

同じアカウントで、二重ログインすることはできません。

#### ● セッションポーリング

セッション接続中（ログイン中）、クライアント（ブラウザ）は、CMS を 3 秒ごとにポーリングします。

#### ● 無通信タイムアウト

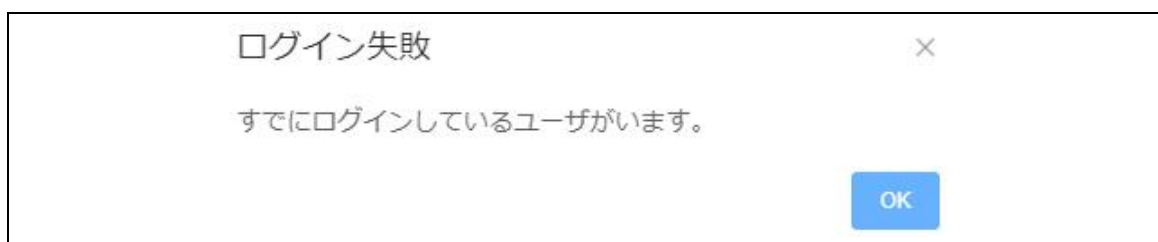
クライアント（ブラウザ）からのポーリングが 1 分以上途絶えた場合、CMS は当該セッションを終了します。

ログアウトしないでブラウザを終了した場合、無通信タイムアウトが確定するまで、当該アカウントでのログインは出来ません。



### 3.2.2. ログイン失敗

ログインに失敗した場合は、ログイン失敗ダイアログを表示します。



- ログイン失敗時のメッセージと、原因および対応方法について示します。

メッセージ	ログインに失敗しました。
原因および対応方法	アカウントが存在しません。 アカウントを確認してください。

メッセージ	認証に失敗しました。
原因および対応方法	アカウントに対するパスワードが間違っています。 パスワードを確認してください。

メッセージ	すでにログインしているユーザがいます。
原因および対応方法	アカウントに対するセッションが、すでに開始されています。 すでにログインしているユーザがないか確認してください。同じアカウントで、二重ログインすることは出来ません。 ブラウザを閉じて終了した場合は、しばらく（60 秒以上）待ってからログインしてください。

## 4. 画面仕様

### 4.1. システム

「システム」をクリックすると表示されます。



#### ① 「システム設定メニュー」

システム設定用のメニューです。

admin アカウントでログインした場合にのみ表示します。

#### ② 「タイトル」

当該メニューのタイトルを表示します。

#### ③ 「コンテンツ」

当該メニューのコンテンツを表示します。

#### 4.1.1. システム情報

「システム」 → 「システム情報」 をクリックすると表示されます。



##### 4.1.1.1. システム基本設定

システムの基本設定を行います。

システム基本設定	
システム名称 :	<input type="text" value="CMS-1300"/>
CMS アドレス :	<input type="text"/>
<input type="button" value="変更"/>	

システム名称	本装置のシステムの名称を入力します。
CMS アドレス	NXR からアクセスする CMS のアドレスを入力します。
変更	システム名称、CMS アドレスの内容を保存します。

#### 4.1.1.2. システム状態

現在のシステムの状態を示します。



システム状態

シリアル番号： 10880000003

バージョン： Century Systems CMS-1300 Series ver 2.0.0 (build 9/Jun 25 14:13 2020)

loadavg： 1.42, 1.42, 1.40

uptime： 0日 5時間48分50秒

メモリ使用量：  3%

電源： OK

ファームウェア更新

再起動

停止

ファームウェア更新	CMS のファームウェアを更新します。 次項を参照してください。
再起動	CMS を再起動します。 次項を参照してください。
停止	CMS を停止します。 次項を参照してください。

- CMS のファームウェア更新

**ファームウェア更新**

「ファームウェア更新」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

×

**CMSファームウェアアップロード**

\* ファイル  選択されていません

「ファイルを選択」をクリックして、ファームウェアを指定します。

×

**CMSファームウェアアップロード**

\* ファイル  firm.cms1300-v2.0.0-build9.des.bin

「登録」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

ファームウェアのアップロードが完了しました。

現在のファームウェアのバージョン  
Century Systems CMS-1300 Series ver 2.0.0

アップロードされたファームウェアのバージョン  
Century Systems CMS-1300 Series ver 2.0.0

ファームウェアのアップデートを実行します。  
よろしいですか？

「OK」をクリックすると、ファームウェアのアップデートを開始します

- CMS の再起動

**再起動**

「再起動」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

CMSを再起動しますか？

「OK」をクリックすると、CMS の再起動を開始します。

- CMS の停止

**停止**

「停止」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

CMSを停止しますか？

「OK」をクリックすると、下の確認画面が表示されます。

本当にCMSを停止してもよろしいですか？

CMS停止後はアクセスできません。  
再度使用する場合は、電源ボタンの操作が必要です。

「OK」をクリックすると、CMS を停止します。

#### 4.1.1.3. 内部ストレージ情報

「状態」をクリックすると、ストレージ状態を表示します。



ストレージ状態 ①		
<p>ストレージ状態 (RAID 状態、およびスペア状態) を表示します。 RAID 状態が REBUILDING の場合は、状態と共に進捗率 (%) を表示します。</p>		
<p>RAID状態： OK</p> <p>スペア状態： OK</p>		
RAID 状態	OK	正常
	REBUILDING	再構築中
	DEGRADED	冗長性のない状態
	FAULT	故障・異常
スペア状態	OK	正常
	NONE	ディスクなし

ストレージ状態 ②		
<p>ストレージ状態 (各ディスクの状態) を表示します。</p>		
<p>ディスク0状態： OK (raid)</p> <p>ディスク1状態： OK (raid)</p> <p>ディスク2状態： OK (spare)</p>		
ディスク 0 状態 ディスク 1 状態 ディスク 2 状態	OK (raid)	正常 (raid)
	OK (raid-rebuilding)	正常 (raid 再構築中)
	OK (spare)	正常 (spare)
	OK (-)	正常 (無属性)
	UNKNOWN	不明
	FAULT (-)	故障・異常 (無属性)
	FAULT (raid)	故障・異常 (raid)
	NOT-PRESENT	ディスクが認識されていない
<p>ディスク状態の ( ) 内は、属性を表します。</p> <p>(raid) raid に属している状態</p> <p>(spare) spare に属している状態</p> <p>(-) 無属性 (raid にも、spare にも属していない状態)</p>		

### ストレージ状態 ③

内部ディスクを操作するための UI です。

ディスク番号

- スペアを作成する場合は、ディスク番号を指定して「**スペア作成**」をクリックします。
- CMS からディスクを取り外す場合は、ディスク番号を指定して「**ディスク削除**」をクリックします。

### ストレージ状態 ④

ストレージ使用率 (%) を表示します。HDD の容量は表示しません。

### S.M.A.R.T 情報(ディスク 0, 1, 2) ⑤

各ディスクについて、S.M.A.R.T (Self-Monitoring, Analysis, and Reporting Technology) 情報を表示することができます。

状態 [S.M.A.R.T情報 \(ディスク0\)](#) [S.M.A.R.T情報 \(ディスク1\)](#) [S.M.A.R.T情報 \(ディスク2\)](#)

```
disk:0 smart information.
SMART Attributes Data Structure revision number: 16
Vendor Specific SMART Attributes with Thresholds:
ID# ATTRIBUTE_NAME          FLAG     VALUE WORST THRESH TYPE      UPDATED  WHEN_FAILED RAW_VALUE
  1 Raw_Read_Error_Rate     0x000b   100   100   016   Pre-fail Always    -         0
  2 Throughput_Performance  0x0005   132   132   054   Pre-fail Offline   -        101
  3 Spin_Up_Time            0x0007   100   100   024   Pre-fail Always    -         0
  4 Start_Stop_Count        0x0012   100   100   000   Old_age  Always    -         7
  5 Reallocated_Sector_Ct   0x0033   100   100   005   Pre-fail Always    -         0
  7 Seek_Error_Rate         0x000b   100   100   087   Pre-fail Always    -         0
  8 Seek_Time_Performance   0x0005   128   128   020   Pre-fail Offline   -        18
  9 Power_On_Hours          0x0012   100   100   000   Old_age  Always    -       820
 10 Spin_Retry_Count        0x0013   100   100   060   Pre-fail Always    -         0
```



#### 4.1.1.3.1. HDD の交換手順

本体 HDD ストレージの交換手順について示します。

「ディスク異常の確認」→「ディスク削除」→「HDD の交換」→「スペア作成」の順に実行します。

- ディスク異常の確認

正常な状態

状態	S.M.A.R.T情報 (ディスク0)	S.M.A.R.T情報 (ディスク1)	S.M.A.R.T情報 (ディスク2)
ストレージ状態			
RAID状態: OK			
スペア状態: OK			
ディスク0状態: OK (raid)			
ディスク1状態: OK (raid)			
ディスク2状態: OK (spare)			

ディスク 1 に異常が発生した状態 (ディスク 1 状態: **FAULT(raid)**)

状態	S.M.A.R.T情報 (ディスク0)	S.M.A.R.T情報 (ディスク1)	S.M.A.R.T情報 (ディスク2)
ストレージ状態			
RAID状態: REBUILDING (0%)			
スペア状態: NONE			
ディスク0状態: OK (raid)			
ディスク1状態: <b>FAULT (raid)</b>			
ディスク2状態: OK (raid-rebuilding)			

※ スペアを利用して、自動的に REBUILDING を開始します。

ディスク 2 状態: **OK(spare) → OK(raid-rebuilding)**

※ REBUILDING 中は、HDD の交換 (ディスク削除) が出来ません。

HDD の交換 (ディスク削除) は、REBUILDING が完了してから行ってください。

※ REBUILDING が完了するまでに、長時間 (13 時間以上) が必要です。

REBUILDING が完了した状態 (RAID 状態が「OK」になっていることを確認します。)

状態	S.M.A.R.T情報 (ディスク0)	S.M.A.R.T情報 (ディスク1)	S.M.A.R.T情報 (ディスク2)
ストレージ状態			
RAID状態: OK			
スペア状態: NONE			
ディスク0状態: OK (raid)			
ディスク1状態: <b>FAULT (raid)</b>			
ディスク2状態: OK (raid)			

- ディスク削除

- ① ストレージ状態から、異常ディスクを特定します。
- ② 「ディスク番号」を指定します。
- ③ 「ディスク削除」をクリックします。

状態 S.M.A.R.T情報 (ディスク0) S.M.A.R.T情報 (ディスク1) S.M.A.R.T情報 (ディスク2)

ストレージ状態

RAID状態 : OK

スペア状態 : NONE

ディスク0状態 : OK (raid)

ディスク1状態 ① FAULT (raid)

ディスク2状態 : OK (raid)

ディスク番号 ② 1 ▼

スペア作成

ディスク削除 ③

以下の画面が表示されます。

ポート1のディスクを削除しますか？

キャンセル

OK

「OK」をクリックすると、ディスクを削除します。

- ④ ディスク状態が、**FAULT(-)**になっていることを確認します。

状態 S.M.A.R.T情報 (ディスク0) S.M.A.R.T情報 (ディスク1) S.M.A.R.T情報 (ディスク2)

ストレージ状態

RAID状態 : OK

スペア状態 : NONE

ディスク0状態 : OK (raid)

ディスク1状態 ④ FAULT (-)

ディスク2状態 : OK (raid)

ディスク番号 1 ▼

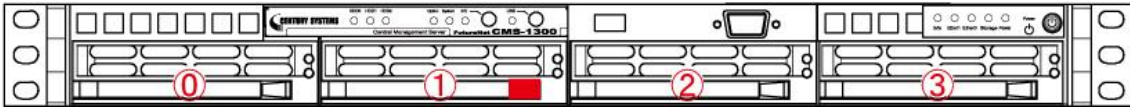
スペア作成

ディスク削除

※ CMS から HDD を取り外す前に、必ず「ディスク削除」を実行してください。

- HDD の交換

- 当該ディスクの物理ポートを確認した上で、HDD を CMS から外します。
- ※ ディスク 1 は、番号①の HDD ベイに相当します。赤いボタンを押すと、物理的なロックが外れます。



- 新しい HDD を CMS に装着します。
- ※ 弊社指定の HDD を使用してください。
- ※ 一度 CMS に装着して (raid) / (spare) に設定した HDD は、内部に当該情報が残るため、CMS で再使用しないでください。

- スペア作成

- ① ディスク状態が、**OK(-)**であることを確認します。
- ② 「ディスク番号」を選択して「スペア作成」をクリックします。

The screenshot shows a RAID configuration page with the following details:

- Header: 状態 | S.M.A.R.T情報 (ディスク0) | S.M.A.R.T情報 (ディスク1) | S.M.A.R.T情報 (ディスク2)
- ストレージ状態: RAID状態: OK
- スペア状態: NONE
- ディスク0状態: OK (raid)
- ディスク1状態: **①** OK (-)
- ディスク2状態: OK (raid)
- Bottom: ディスク番号 | 1 | **②** | スペア作成 | ディスク削除

※ CMS に (spare) が存在している場合は、新たにスペアを作成することは出来ません。  
(spare) が存在しない状態で、「スペア作成」を実行してください。

HDD 構成が「(raid) 2 台」 + 「(spare) 1 台」になっていることを確認します。

The screenshot shows the RAID configuration page after a spare disk has been added:

- Header: 状態 | S.M.A.R.T情報 (ディスク0) | S.M.A.R.T情報 (ディスク1) | S.M.A.R.T情報 (ディスク2)
- ストレージ状態: RAID状態: OK
- スペア状態: OK
- ディスク0状態: OK (raid)
- ディスク1状態: OK (spare)
- ディスク2状態: OK (raid)
- Bottom: ディスク番号 | 1 | | スペア作成 | ディスク削除

#### 4.1.1.3.2. HDD の復旧手順

本体 HDD ストレージの交換後、ディスク状態が通常と異なる場合の復旧手順について示します。

- ディスク状態「UNKNOWN」  
ディスク状態が「UNKNOWN」と表示された場合は、以下の手順を実行します。  
復旧した場合（ディスク状態が「OK」の場合）は当該手順で終了します。  
復旧しない場合は次の手順を実行します。

①	「システム」→「システム情報」をクリックして、内部ストレージ情報を更新します。
②	①の操作を複数回実行します。
③	<ul style="list-style-type: none"><li>• 当該ディスクを選択して「ディスク削除」を実行します。</li><li>• CMS から当該 HDD を外します。</li><li>• 当該 HDD を再度 CMS に装着します。</li><li>• 「システム」→「システム情報」をクリックして、内部ストレージ情報を更新します。</li></ul>
④	③の操作を複数回実行します。
⑤	CMS を再起動します。

- ディスク状態「(spare) 2 台」  
ディスク状態に (spare) が 2 台表示された場合の対処方法を示します。

<ul style="list-style-type: none"><li>• 時間が経過すると、2 台の (spare) のうち 1 台が REBUILDING を開始します。REBUILDING が完了すると、「(raid) 2 台」+「(spare) 1 台」の構成になります。</li><li>• しばらく待っても状態が変わらなければ、「ディスク削除」の実行や HDD の取り外しを行ってください。</li></ul>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

- ※ 元の状態が (spare) の HDD を CMS に装着すると、(spare) が 2 台になる場合があります。

#### 4.1.2. ネットワーク I/F

「システム」 → 「ネットワーク I/F」 をクリックすると表示されます。



The screenshot shows a web interface for configuring network interfaces. At the top, there is a dropdown menu (1) currently set to 'eth0'. To its right are three buttons: '情報表示' (2), 'インターフェース再起動' (3), and '項目追加' (4). Below these is a table with columns for '項目' (Item), '値' (Value), and actions. The table has three rows: 'アドレス' (Address) with value '192.168.0.254/24' (5), and 'MTU' with value '1500'. The '項目' column has a dropdown menu (6) with options '全体表示', 'eth0', and 'eth1'. To the right of the table are two columns of edit/delete buttons (7).

項目	値		
アドレス	192.168.0.254/24		
MTU	1500		

① 「インターフェースの選択」  
インターフェースをプルダウンから選択します。

② 「情報表示」  
クリックすると、インターフェース情報を表示します。

③ 「インターフェース再起動」  
クリックすると、選択しているインターフェースの再起動を行います。  
インターフェース再起動を実行すると、変更内容が反映されます。

④ 「項目追加」  
クリックすると、インターフェースに設定項目を追加します。  
項目の種別は、アドレス、インターフェース ID、ルーティング、MTU です。

⑤ 「項目一覧」  
現在設定されている項目の一覧を表示します。

⑥ 「編集」  
「編集」をクリックすると、項目を編集することが出来ます。

⑦ 「削除」  
「削除」をクリックすると、項目を削除します。

#### 4.1.2.1. 項目追加



eth1 情報表示 インターフェース再起動 項目追加

インターフェース (eth0/eth1) を選択して「項目追加」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

インターフェース設定 (eth1)

\*項目: アドレス

\*アドレス: アドレス  
インターフェースID  
ルーティング  
MTU

キャンセル 登録

プルダウンから、項目を選択します。

- アドレス
- インターフェース ID
- ルーティング
- MTU

#### 4.1.2.1.1. 項目：アドレス

指定インターフェースに、IP アドレスを設定します。

IPv4 アドレスは、1 つだけ設定することができます。

IPv6 アドレスは、複数設定することができます。



インターフェース設定 (eth1)

\*項目: アドレス

\*アドレス:

キャンセル 登録

#### アドレス

インターフェースに IP アドレスを設定します。

IP アドレスとプレフィクス長を指定します。

IPv4 アドレスの設定例： 192.168.0.1/24

IPv6 アドレスの設定例： 2001::1/64

IPv4 DHCP でアドレスを取得する場合は、「dhcp」を指定します。

「キャンセル」をクリックすると、入力内容を破棄します。

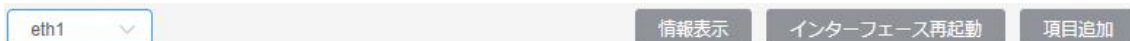
「登録」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

インターフェースを設定しました。

変更を反映するには「インターフェース再起動」を行ってください。

OK

設定を反映するには、「インターフェース再起動」を実行します。



eth1

情報表示 インターフェース再起動 項目追加



#### 4.1.2.1.2. 項目：インターフェース ID

指定インターフェースに、インターフェース ID を設定します。

### インターフェース設定 (eth1) ×

\*項目: インターフェースID ▼

\*インターフェースID:

キャンセル 登録

---

<b>インターフェースID</b>	IPv6 アドレスのインターフェースIDを指定します。
「キャンセル」をクリックすると、入力内容を破棄します。	
「登録」をクリックすると、入力内容をCMSに登録して、以下のダイアログを表示します。	

↑

インターフェースを設定しました。

変更を反映するには「インターフェース再起動」を行ってください。

OK

設定を反映するには、「インターフェース再起動」を実行します。

eth1 ▼ 情報表示 インターフェース再起動 項目追加

#### 4.1.2.1.3. 項目：ルーティング

指定インターフェースに、ルーティングを設定します。

ルーティングは複数指定可能です。

×

インターフェース設定 (eth1)

\*項目: ルーティング ▼

\*宛先:

\*ゲートウェイ:

キャンセル
登録

宛先	宛先ネットワーク（またはホスト）を、プレフィックス長と共に指定します。
ゲートウェイ	ゲートウェイアドレスを指定します。

「キャンセル」をクリックすると、入力内容を破棄します。

「登録」をクリックすると、入力内容をCMSに登録して、以下のダイアログを表示します。

↑

インターフェースを設定しました。

変更を反映するには「インターフェース再起動」を行ってください。

OK

設定を反映するには、「インターフェース再起動」を実行します。

eth1 ▼
情報表示
インターフェース再起動
項目追加

以下に、設定例を示します。

IPv4 net ルート	宛先	192.168.100.0/24
	ゲートウェイ	192.168.1.1
IPv4 デフォルトルート	宛先	0.0.0.0/0
	ゲートウェイ	192.168.1.2
IPv6 デフォルトルート	宛先	::/0
	ゲートウェイ	2020::1

#### 4.1.2.1.4. 項目 : MTU

指定インターフェースに、MTU を設定します。

インターフェース設定 (eth1)	
* 項目 :	MTU
* MTU :	1500
<input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="登録"/>	
<b>MTU</b>	インターフェースMTU値を指定します。 最小値は 128、最大値は 1500 です。
「キャンセル」をクリックすると、入力内容を破棄します。	
「登録」をクリックすると、入力内容をCMSに登録して、以下のダイアログを表示します。	
<p>↑</p> <p>インターフェースを設定しました。 変更を反映するには「インターフェース再起動」を行ってください。</p> <input type="button" value="OK"/>	
設定を反映するには、「インターフェース再起動」を実行します。	
eth1	<input type="button" value="情報表示"/> <input type="button" value="インターフェース再起動"/> <input type="button" value="項目追加"/>

#### 4.1.3. DNSサーバアドレス

「システム」 → 「DNSサーバアドレス」 をクリックすると表示されます。

##### 4.1.3.1. DNSサーバアドレス設定

DNSサーバアドレスを設定します。

<p>DNSサーバアドレス設定</p> <p>DNSサーバアドレス1 : <input type="text" value="192.168.100.50"/></p> <p>DNSサーバアドレス2 : <input type="text" value="8.8.8.8"/></p> <p>DNSサーバアドレス3 : <input type="text" value="1.1.1.1"/></p> <p>DNSサーバアドレス4 : <input type="text" value="9.9.9.9"/></p> <p style="text-align: right;"><input type="button" value="変更"/></p>	
DNSサーバアドレス 1	DNSサーバアドレスを4つまで指定できます。 IPアドレスを入力します。
DNSサーバアドレス 2	
DNSサーバアドレス 3	
DNSサーバアドレス 4	
「変更」をクリックすると、DNSサーバアドレスをCMSに設定します。	

##### 4.1.3.2. DNSサーバアドレス設定

DNS情報を表示します。

<p>DNS情報</p> <p style="text-align: right;"><input type="button" value="更新"/></p> <pre>nameserver 192.168.100.50 nameserver 8.8.8.8 nameserver 1.1.1.1 nameserver 9.9.9.9</pre>
「更新」をクリックすると、DNS情報を更新します。

#### 4.1.4. 時刻設定

「システム」→「時刻設定」をクリックすると表示されます。

##### 4.1.4.1. CMSシステム時刻

CMS のシステム時刻を設定します。

<p>CMSシステム時刻</p> <p>*時刻設定： <input type="text" value="🕒 2020-07-07 12:47 ①"/> <input type="button" value="変更 ②"/></p>	
① 時刻設定	「システム」→「時刻設定」をクリックした時の日時が表示されます。 各コントロールを操作して、日付および時刻を指定します。
② 変更	「変更」をクリックすると、システム時刻を変更します。

#### 4.1.4.2. NTP設定

NTP の設定を行います。

NTP設定

NTPサーバ:  停止  起動

設定1  
サーバアドレス:

ポーリング最小値:

ポーリング最大値:

設定2  
サーバアドレス:

ポーリング最小値:

ポーリング最大値:

<b>NTPサーバ</b>	NTPサーバの「停止」 / 「起動」を選択します。
<b>サーバアドレス</b>	サーバアドレスを 2 つ指定できます。 IP アドレス、または FQDN を指定します。 FQDNを指定する場合、DNSサーバアドレスの設定が必要です。
<b>ポーリング最小値</b>	4～8 の値を指定します。 最小値 < 最大値になるように指定します。
<b>ポーリング最大値</b>	8～12 の値を指定します。 最小値 < 最大値になるように指定します。
<b>変更</b>	「変更」をクリックすると、入力内容をCMSに設定します。 NTPの「停止」 / 「起動」はすぐに反映されます。

#### 4.1.4.2.1. NTP 状態

NTP 状態を表示します。NTP サーバが起動している状態で有効化されます。

NTP状態

```

remote      refid      st t when poll reach  delay  offset jitter
-----
ntp-a2.nict.go. .NICT.    1 u  4 18h  1   2.963  0.114  0.000
    
```


「更新」をクリックすると最新の状態を表示します。

#### 4.1.5. SYSLOG

「システム」 → 「SYSLOG」 をクリックすると表示されます。

##### 4.1.5.1. CMS SYSLOG設定

本装置の SYSLOG サーバの設定を変更します。

	
ローカル設定	<p>「<b>プライオリティ</b>」 ローカルファイルに出力する SYSLOG のプライオリティを指定します。 プルダウンから、「NOTICE」、「INFO」、「DEBUG」を選択します。</p>
転送設定	<p>「<b>SYSLOG転送</b>」 「転送しない」または「転送する」を選択します。 「転送する」を選択した場合、CMS が出力する SYSLOG を、外部 SYSLOG サーバに転送することができます。</p>
	<p>「<b>転送先サーバ</b>」 IP アドレスまたは FQDN で、転送先サーバを指定します。 FQDN で指定する場合、DNS サーバアドレスの設定が必要です。</p>
	<p>「<b>プライオリティ</b>」 転送する SYSLOG のプライオリティを指定します。 プルダウンから、「NOTICE」、「INFO」、「DEBUG」を選択します。</p>
	<p>「<b>変更</b>」をクリックすると、入力内容をCMSに設定します。 SYSLOG サーバが再起動し、変更が反映されます。</p>

#### 4.1.5.2. CMS SYSLOGファイル

<p>CMS SYSLOGファイル</p> <p>ダウンロード</p>	
ダウンロード	「ダウンロード」をクリックすると、CMS がローカルファイルに出力している SYSLOG を、PC にダウンロードすることができます。



#### 4.1.6. SNMP

「システム」 → 「SNMP」 をクリックすると表示されます。

##### 4.1.6.1. SNMPエージェント設定

SNMP エージェントの設定を行います。

SNMPエージェント設定	
SNMPサーバ: <input checked="" type="radio"/> 停止 <input type="radio"/> 起動	
location: <input type="text"/>	
contact: <input type="text"/>	
name: <input type="text"/>	
SNMPマネージャ 1: <input type="text"/>	コミュニティ名 1: <input type="text"/>
SNMPマネージャ 2: <input type="text"/>	コミュニティ名 2: <input type="text"/>
SNMPマネージャ 3: <input type="text"/>	コミュニティ名 3: <input type="text"/>
<input type="button" value="変更"/>	
<b>SNMP サーバ</b>	SNMP サーバの「停止」／「起動」を選択します。
<b>location</b>	「location」を指定します。255 文字まで設定可能です。
<b>contact</b>	「contact」を指定します。255 文字まで設定可能です。
<b>name</b>	「name」を指定します。255 文字まで設定可能です。
<b>SNMP マネージャ 1</b> <b>SNMP マネージャ 2</b> <b>SNMP マネージャ 3</b>	SNMP マネージャを使用するネットワークアドレスを指定します。 ネットワークアドレスは、3 つまで指定することができます。 以下のネットワークアドレスを指定することができます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>IPv4 アドレス、IPv4 ネットワークアドレス</li> <li>IPv6 アドレス、IPv6 ネットワークアドレス</li> </ul> ※ SNMP マネージャを設定する場合は、対応するコミュニティ名も設定してください。片方だけを設定することはできません。
<b>コミュニティ名 1</b> <b>コミュニティ名 2</b> <b>コミュニティ名 3</b>	SNMP マネージャに対応するコミュニティ名を指定します。 255 文字まで設定可能です。
<b>変更</b>	「変更」をクリックすると、入力内容が反映されます。

#### 4.1.7. テナント管理

「システム」→「テナント管理」をクリックすると表示されます。  
テナントの追加、削除および編集を行うことができます。

		① テナントデータのインポート	② テナントの追加
テナントコード ◆	名称 ◆		
century	century	④ と	⑤ 白
sample	sample	④ と	⑤ 白

① 「テナントデータのインポート」  
CMS に、テナントデータをインポートします。  
CMS を初期化後、テナントデータをインポートする場合、あるいは異なる CMS 間でテナントデータを移動する場合等に使用します。

② 「テナントの追加」  
クリックすると、テナントを追加することができます。  
CMS に登録可能なテナント数は、最大 30 個です。

③ 「テナント一覧」  
現在 CMS に登録されているテナントの一覧を表示します。

④ 「編集」  
「編集」をクリックすると、テナント情報を編集することができます。

⑤ 「削除」  
「削除」をクリックすると、テナント情報を削除することができます。

#### 4.1.7.1. テナントデータのインポート

**テナントデータのインポート**   **テナントの追加**

「テナントデータのインポート」をクリックすると、次の画面が表示されます。

テナントデータのインポート ×

\*ファイル:  選択されていません

「ファイルを選択」をクリックして、インポートするファイル（テナントデータ）を選択します。

テナントデータのインポート ×

\*ファイル:  test1\_config\_hdd.dat

「登録」をクリックすると、次の画面が表示されます。

×

指定ファイル内容は以下のとおりです。  
間違いなければ[OK]を押してインポートを開始してください。

テナントコード : century  
バックアップ日時 : 2020-07-07 17:42:44  
機器数 : 0

表示されているメッセージ内容を確認して、インポートする／しないを判断します。  
「OK」をクリックすると、テナントデータのインポートを開始します。

#### 4.1.7.2. テナントの追加

<span style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">テナントデータのインポート</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px; margin-left: 10px;">テナントの追加</span>	
<p>「テナントの追加」をクリックすると、次の画面が表示されます。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <div style="text-align: right; border-bottom: 1px solid #ccc; padding-bottom: 5px;"> <span style="font-weight: bold;">テナント追加</span> <span style="float: right; font-size: 1.2em;">×</span> </div> <div style="padding: 5px 0 5px 20px;"> <p>*テナントコード: <input style="width: 150px;" type="text"/></p> <p>名称: <input style="width: 200px;" type="text"/></p> <p>*アカウント: <input style="width: 150px;" type="text"/></p> <p>*パスワード: <input style="width: 150px;" type="text"/></p> <p>*機器最大数: <input style="width: 30px;" type="text" value="-"/> <input style="width: 30px;" type="text" value="256"/> <input style="width: 30px;" type="text" value="+"/></p> <p>備考: <input style="width: 200px;" type="text"/></p> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> <span style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px 10px; margin-right: 10px;">キャンセル</span> <span style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px 10px;">登録</span> </div> </div> </div>	
<b>テナントコード</b>	テナントを識別するための文字列を指定します。 同一 CMS 内での重複はできません。
<b>名称</b>	テナントの名称を指定します。
<b>アカウント</b>	テナントに対して発行するアカウントを指定します。 CMS へのログイン時に使用します。 同一 CMS 内での重複はできません。
<b>パスワード</b>	アカウントに対するパスワードを指定します。 CMS へのログイン時に使用します。
<b>機器最大数</b>	当該テナントに登録できる機器の最大数を（1～2048 の範囲で）指定します。
<b>備考</b>	備考欄です。文字列を入力します。
<b>キャンセル</b>	入力内容を破棄します。
<b>登録</b>	入力内容を CMS へ登録します。 テナントコードやアカウントの重複がある場合は、エラーダイアログが表示されます。
<p>※ 全テナントの機器最大数の合計が、CMSの機器最大数（10,000）を超える場合は、注意が表示されます。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin: 5px 0; background-color: #f0f0f0;"> <p style="color: red; font-weight: bold;">注意：設定されたテナントの機器最大数の合計（10752）が、機器の設定可能上限数を超えています。</p> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">テナントデータのインポート</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px; margin-left: 10px;">テナントの追加</span> </div>	

#### 4.1.7.3. テナント情報の編集

テナントコード ◯ century	名称 ◯ century	 
----------------------	-----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

「編集」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

テナント情報	
テナント情報の現在の設定値が表示されます。	
<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px;"> <p>テナント情報</p> <p>テナントコード: century</p> <p>名称: <input type="text" value="century"/></p> <p>* 機器最大数: <input type="text" value="-"/> 256 <input type="text" value="+"/> <input type="text" value=""/></p> <p>備考: <input type="text" value=""/></p> <p style="text-align: right;"><input type="button" value="変更"/></p> </div>	
<p>テナント情報の設定を変更することができます。</p> <p>ただし、テナントコードは、変更できません。</p> <p>「変更」をクリックすると、変更内容が反映されます。</p>	

テナントアカウント情報	
テナントのアカウント情報が表示されます。	
<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px;"> <p>テナントアカウント情報</p> <p>アカウント: century</p> <p>ログイン状態: ログインしていません。</p> <p>ログイン時刻:</p> <p>* 新しいパスワード: <input type="text"/> <input type="button" value="変更"/></p> <p>* 新しいSSHパスワード: <input type="text"/> <input type="button" value="変更"/></p> </div>	
アカウント	当該テナントのアカウントを表示します。
ログイン状態	当該アカウントのログイン状態を表示します。
ログイン時刻	ログイン中の場合は、ログインした時刻を表示します。
新しいパスワード	admin 権限により当該アカウントのログインパスワードを変更することができます。 「変更」をクリックすると、変更内容が反映されます。
新しいSSHパスワード	admin 権限により当該テナントのSSHパスワードを変更することができます。 「変更」をクリックすると、変更内容が反映されます。

#### 4.1.7.4. テナント情報の削除

テナントコード	名称
century	century

「削除」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

テナント[century]を削除しますか？

キャンセル OK

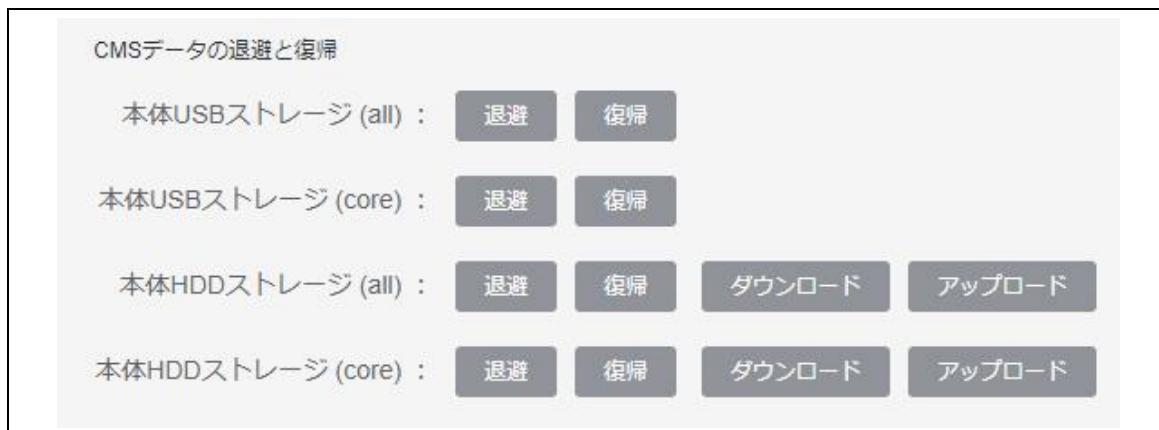
「OK」をクリックすると、当該テナントを削除します。

#### 4.1.8. システムデータ

「システム」 → 「システムデータ」 をクリックすると表示されます。

##### 4.1.8.1. CMSシステムデータの退避と復帰

CMS データ（システムデータ） の退避と復帰を行います。



- all と core の違い

本体 USB ストレージ (all) 本体 HDD ストレージ (all)	CMS のシステム全体データを表します。 システム全体の設定データです。 ログファイルを除きます。
本体 USB ストレージ (core) 本体 HDD ストレージ (core)	CMS のシステム最小データを表します。 テナントデータ以外のシステムの設定データです。 ログファイルを除きます。

※ システム全体データ (all) とシステム最小データ (core) の関係は、次のとおりです。  
システム全体データ = システム最小データ + (すべての) テナントデータ

#### 4.1.8.1.1. 本体 USB ストレージ (all)

本体 USB ストレージ (all) を使用して、CMS データ (システムデータ) の退避、および復帰を行います。

本体USBストレージ (all) : <input type="button" value="退避"/> <input type="button" value="復帰"/>	
退避	<p>「<b>退避</b>」をクリックすると、システムデータを本体 USB (all) へ退避します。以下の画面が表示されます。</p> <p>システムデータを本体USB (all) へ退避しますか?</p> <p><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/></p> <p>「<b>OK</b>」をクリックすると、システムデータの退避を実行します。</p>
復帰	<p>「<b>復帰</b>」をクリックすると、システムデータを本体 USB (all) から復帰します。以下の画面が表示されます。</p> <p>システムデータを本体USB (all) から復帰します。</p> <p>データの復帰後は、CMSは再起動します。 本体USB (all) のシステムデータをチェックします。 [OK]を押してください。</p> <p><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/></p> <p>「<b>OK</b>」をクリックすると、以下の画面が表示されます。</p> <p>システムデータを本体USB (all) から復帰します。</p> <p>このデータは 2020-07-13 10:15:24 に退避されました。 データの復帰後は、CMSは再起動します。</p> <p><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/></p> <p>「<b>OK</b>」をクリックすると、システムデータを復帰します。</p> <p>※ システムデータの復帰後は、CMS は再起動します。 ※ ログイン中のアカウントは、強制ログアウトします。</p>



#### 4.1.8.1.2. 本体 USB ストレージ (core)

本体 USB ストレージ (core) を使用して、CMS データ (システムデータ) の退避、および復帰を行います。

本体USBストレージ (core) : <input type="button" value="退避"/> <input type="button" value="復帰"/>	
退避	<p>「<b>退避</b>」をクリックすると、システムデータを本体 USB (core) へ退避します。以下の画面が表示されます。</p> <p>システムデータを本体USB (core) へ退避しますか？</p> <p><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/></p> <p>「<b>OK</b>」をクリックすると、システムデータの退避を実行します。</p>
復帰	<p>「<b>復帰</b>」をクリックすると、システムデータを本体 USB (core) から復帰します。以下の画面が表示されます。</p> <p>システムデータを本体USB (core) から復帰します。</p> <p>データの復帰後は、CMSは再起動します。 本体USB (core) のシステムデータをチェックします。 [OK]を押してください。</p> <p><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/></p> <p>「<b>OK</b>」をクリックすると、以下の画面が表示されます。</p> <p>システムデータを本体USB (core) から復帰します。</p> <p>このデータは 2020-07-13 10:58:14 に退避されました。 データの復帰後は、CMSは再起動します。</p> <p><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/></p> <p>「<b>OK</b>」をクリックすると、システムデータを復帰します。</p> <p>※ システムデータの復帰後は、CMS は再起動します。 ※ ログイン中のアカウントは、強制ログアウトします。</p>

#### 4.1.8.1.3. 本体 HDD ストレージ (all)

本体 HDD ストレージ (all) を使用して、CMS データ (システムデータ) の退避、復帰、ダウンロード、およびアップロードを行います。

本体HDDストレージ (all) : <input type="button" value="退避"/> <input type="button" value="復帰"/> <input type="button" value="ダウンロード"/> <input type="button" value="アップロード"/>	
退避	<p>「<b>退避</b>」をクリックと、システムデータを本体 HDD (all) へ退避します。以下の画面が表示されます。</p> <p>システムデータを本体HDD (all) へ退避しますか？</p> <p><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/></p> <p>「<b>OK</b>」をクリックすると、システムデータの退避を実行します。</p>
復帰	<p>「<b>復帰</b>」をクリックすると、システムデータを本体 HDD (all) から復帰します。以下の画面が表示されます。</p> <p>システムデータを本体HDD (all) から復帰します。</p> <p>データの復帰後は、CMSは再起動します。 本体HDD (all) のシステムデータをチェックします。 [OK]を押してください。</p> <p><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/></p> <p>「<b>OK</b>」をクリックすると、以下の画面が表示されます。</p> <p>システムデータを本体HDD (all) から復帰します。</p> <p>このデータは 2020-07-13 11:21:06 に退避されました。 データの復帰後は、CMSは再起動します。</p> <p><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/></p> <p>「<b>OK</b>」をクリックすると、システムデータを復帰します。</p> <p>※ システムデータの復帰後は、CMS は再起動します。 ※ ログイン中のアカウントは、強制ログアウトします。</p>

<p>ダウンロード</p>	<p>「ダウンロード」をクリックすると、以下の画面が表示されます。</p> <div style="text-align: center;"> <p>本体HDD (all) のシステムデータをダウンロードしますか？</p> <p> <input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/> </p> </div> <p>「OK」をクリックすると、本体 HDD (all) のシステムデータをダウンロードします。</p>
<p>アップロード</p>	<p>「アップロード」をクリックすると、以下の画面が表示されます。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; background-color: #f9f9f9;"> <p style="text-align: right;">システムデータのアップロード (HDD) <span style="float: right;">×</span></p> <p>本体HDDのシステムデータ (all) へアップロードします。</p> <p>*ファイル: <input type="button" value="ファイルを選択"/> 選択されていません</p> <p style="text-align: right;"> <input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="登録"/> </p> </div> <p>「ファイルを選択」をクリックして、ファイルを指定します。  「登録」をクリックすると、本体 HDD (all) に、システムデータをアップロードします。</p>

#### 4.1.8.1.4. 本体 HDD ストレージ (core)


本体 HDD ストレージ (core) を使用して、CMS データ (システムデータ) の退避、復帰、ダウンロード、およびアップロードを行います。

本体HDDストレージ (core) : <input type="button" value="退避"/> <input type="button" value="復帰"/> <input type="button" value="ダウンロード"/> <input type="button" value="アップロード"/>	
退避	<p>「<b>退避</b>」をクリックと、システムデータを本体 HDD (all) へ退避します。以下の画面が表示されます。</p> <p style="text-align: center;">システムデータを本体HDD (all) へ退避しますか？</p> <p style="text-align: right;"><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/></p> <p>「<b>OK</b>」をクリックすると、システムデータの退避を実行します。</p>
復帰	<p>「<b>復帰</b>」をクリックすると、システムデータを本体 HDD (all) から復帰します。以下の画面が表示されます。</p> <p style="text-align: center;">システムデータを本体HDD (all) から復帰します。</p> <p>データの復帰後は、CMSは再起動します。 本体HDD (all) のシステムデータをチェックします。 [OK]を押してください。</p> <p style="text-align: right;"><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/></p> <p>「<b>OK</b>」をクリックすると、以下の画面が表示されます。</p> <p style="text-align: center;">システムデータを本体HDD (all) から復帰します。</p> <p>このデータは 2020-07-13 11:21:06 に退避されました。 データの復帰後は、CMSは再起動します。</p> <p style="text-align: right;"><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/></p> <p>「<b>OK</b>」をクリックすると、システムデータを復帰します。</p> <p>※ システムデータの復帰後は、CMS は再起動します。 ※ ログイン中のアカウントは、強制ログアウトします。</p>

<p>ダウンロード</p>	<p>「ダウンロード」をクリックすると、以下の画面が表示されます。</p> <div style="text-align: center;"> <p>本体HDD (all) のシステムデータをダウンロードしますか？</p> <p> <input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/> </p> </div> <p>「OK」をクリックすると、本体 HDD (all) のシステムデータをダウンロードします。</p>
<p>アップロード</p>	<p>「アップロード」をクリックすると、以下の画面が表示されます。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; background-color: #f9f9f9;"> <p style="text-align: right;">システムデータのアップロード (HDD) <span style="float: right;">×</span></p> <p>本体HDDのシステムデータ (all) へアップロードします。</p> <p>*ファイル: <input type="button" value="ファイルを選択"/> 選択されていません</p> <p style="text-align: right;"> <input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="登録"/> </p> </div> <p>「ファイルを選択」をクリックして、ファイルを指定します。  「登録」をクリックすると、本体 HDD (all) に、システムデータをアップロードします。</p>

#### 4.1.8.2. 初期化 (CMSデータ・本体USBストレージ)

CMS データ (システムデータ)、および本体 USB ストレージを初期化します。

	
CMS データ	<p>「初期化実行」をクリックすると、CMS データ (システムデータ) を初期化します。以下の画面が表示されます。</p> <p>システムデータを初期化します。 CMSが管理するテナント情報、機器情報がすべて消去されます。 管理者パスワード、ネットワーク設定は出荷時設定に戻ります。 初期化後はCMSは再起動します。</p> <p>本当に初期化を実行してもよろしいですか?</p> <p><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/></p> <p>「OK」をクリックすると、初期化を実行します。</p> <p>※ CMS データ (システムデータ) を初期化すると、工場出荷状態で起動します。</p>
本体 USB ストレージ	<p>「初期化実行」をクリックすると、本体 USB ストレージを初期化します。以下の画面が表示されます。</p> <p>本体USBストレージを初期化します。 USB上の情報がすべて消去されます。</p> <p>本当に初期化を実行してもよろしいですか?</p> <p><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/></p> <p>「OK」をクリックすると、初期化を実行します。</p>

## 4.2. ログ

「ログ」をクリックすると表示されます。



ログの検索結果を（最大 5000 件）表示します。

検索結果はダウンロードすることができます。

日時	分類	実行元種別	実行元コード	対象種別	対象コード	イベント	オプション
2020-07-07 11:12:51	通知	CMS	CMS	CMS	CMS	CMS起動	
2020-07-07 11:13:15	情報	ユーザ	admin	CMS	CMS	ログイン	192.168.0.1
2020-07-07 15:48:15	情報	ユーザ	admin	CMS	CMS	ログアウト	
2020-07-07 15:48:34	情報	ユーザ	admin	CMS	CMS	ログイン	192.168.0.1
2020-07-07 15:51:30	情報	ユーザ	admin	CMS	CMS	ログアウト	
2020-07-07 15:51:38	情報	ユーザ	admin	CMS	CMS	ログイン	192.168.0.1
2020-07-07 17:42:24	情報	ユーザ	admin	CMS	CMS	ログアウト	
2020-07-07 17:43:25	情報	ユーザ	admin	CMS	CMS	ログイン	192.168.0.1
2020-07-07 17:56:27	情報	ユーザ	admin	テナント	admin	テナントデータインポート 開始	
2020-07-07 17:56:29	情報	ユーザ	admin	テナント	admin	テナントデータインポート 完了	

「検索」をクリックすると、ログ検索条件ダイアログを開きます。

「ダウンロード」をクリックすると、検索結果を CSV 形式でダウンロードすることができます。

#### 4.2.1. ログ検索条件ダイアログ

ログ検索条件 ×

期間：  開始 - 終了

ユーザ名：

テナントコード：

機器コード：

グループ名：

順序：  ▼

**「期間」**：開始

カレンダーボタンを押して、開始日を指定します。  
空欄の場合、開始は CMS 内の一番古いログです。

**「期間」**：終了

カレンダーボタンを押して、終了日を指定します。  
空欄の場合、終了はCMS内の最新ログです。

**「ユーザ名」**

操作または対象ユーザ名を指定します。  
空欄の場合、ユーザ名による絞込みを行いません。  
入力できる文字数は最大 16 文字です。

**「テナントコード」**

対象機器の機器コードを指定します。  
空欄の場合、テナントコードによる絞込みを行いません。  
入力できる文字数は最大 16 文字です。

**「機器コード」**

対象機器の機器コードを指定します。  
空欄の場合、機器コードによる絞込みを行いません。  
入力できる文字数は最大 16 文字です。

**「グループ名」**

対象グループのグループ名を指定します。  
空欄の場合、グループ名による絞込みを行いません。  
入力できる文字数は最大 32 文字です。

**「順序」**

検索結果の表示順序を選択します。  
「昇順」の場合、古いログから 5000 件を表示します。  
「降順」の場合、新しいログから 5000 件を表示します。

**「キャンセル」** をクリックすると、入力内容を破棄します。

**「検索」**

上記の指定条件で検索を実行します。

※ 指定条件は、完全一致するように入力してください。



### 4.3. アカウント

「アカウント」をクリックすると表示されます。



#### 4.3.1. アカウント情報

本セッションのアカウント名、テナント名、テナントコードを表示します。



#### 4.3.2. ログインパスワード変更

本セッションのアカウントのログインパスワードを変更します。

A screenshot of the 'ログインパスワード変更' form. It contains three input fields: '\*現在のパスワード:', '\*新しいパスワード:', and '\*新しいパスワード(確認):'. A '変更' button is located at the bottom right of the form area.

##### 「現在のパスワード」

現在のパスワードを入力します。

##### 「新しいパスワード」

新しいパスワードを（1～16文字で）入力します。

##### 「新しいパスワード（確認）」

確認のため、新しいパスワードをもう一度入力します。

「変更」をクリックすると、変更内容が反映されます。

## 5. Appendix

### 5.1. サポートについて

- お客様サポート  
お客様サポートでは、弊社製品をご購入されたお客様をサポートいたします。  
当製品の使用方法や、マニュアルの不明な点については、電話、電子メール、FAX にてお問い合わせください。詳しくは、下記 URL をご覧ください。  
<https://www.centurysys.co.jp/support/>

- ダウンロード  
本装置の最新ファームウェアや「設定例」等のドキュメントは、下記 URL からダウンロードすることが出来ます。  
<https://www.centurysys.co.jp/downloads/>

機能追加や修正に伴い、ファームウェアを随時更新しています。  
できるだけ最新のファームウェアで、本装置を運用するようにしてください。

## 5.2. 工場出荷設定値（初期値）

本装置の工場出荷設定値は、以下のとおりです。

IP アドレス設定	
Ether0	192.168.0.254/24
Ether1	設定なし

管理画面へのログイン	
アカウント	admin
パスワード	admin

### 5.3. イベントログ一覧

本装置で定義されているイベントログの一覧です。

イベント	説明
機器追加	機器を CMS に登録した。
機器削除	機器登録を CMS から削除した。
コンフィグ登録	機器のコンフィグを CMS に登録した。
コンフィグ削除	機器のコンフィグを CMS から削除した。
コンフィグ デフォルト指定選択	コンフィグのデフォルト指定を選択した。
コンフィグ デフォルト指定解除	コンフィグのデフォルト指定を解除した。
ファームウェアイメージ登録	機器ファームウェアイメージファイル CMS に登録した。
ファームウェアイメージ削除	機器ファームウェアイメージファイル CMS から削除した。
ファームウェア デフォルト指定選択	ファームウェアのデフォルト指定を選択した。
ファームウェア デフォルト指定解除	ファームウェアのデフォルト指定を解除した。
グループ追加	グループを追加した。
グループ削除	グループを削除した。
グループ参加	機器をグループに参加させた。
グループ離脱	機器をグループから離脱させた。
テナントデータ退避開始	テナントデータの退避を開始した。
テナントデータ退避完了	テナントデータの退避が完了した。
テナントデータ退避失敗	テナントデータの退避が失敗した。
テナントデータ復帰開始	テナントデータの復帰を開始した。
テナントデータ復帰完了	テナントデータの復帰が完了した。
テナントデータ復帰失敗	テナントデータの復帰が失敗した。
テナントデータインポート開始	テナントデータのインポートを開始した。
テナントデータインポート完了	テナントデータのインポートが完了した。
テナントデータインポート失敗	テナントデータのインポートが失敗した。
ログイン	アカウントが CMS にログインした。
ログアウト	アカウントが CMS からログアウトした。
ログアウト要求通知	CMS がテナントアカウントに対して ログアウトを要求した。
無通信ログアウト	クライアント PC からの通信が一定時間途絶えたため、 対象アカウントをログアウトさせた。
スケジュール追加	スケジュールを追加した。
スケジュール削除	スケジュールを削除した。
スケジュール変更	スケジュールを変更した。
スケジュール動作を中止	スケジュール動作を中止した。
スケジュールによるデフォルト ファームウェア更新開始	スケジュールによる「ファームウェアデフォルト指定選 択」動作命令を開始した。
スケジュールによるデフォルト ファームウェア更新完了	スケジュールによる「ファームウェアデフォルト指定選 択」動作命令をすべて起動した。
スケジュールによる デフォルトコンフィグ更新開始	スケジュールによる「コンフィグデフォルト指定選択」 動作命令を開始した。

スケジュールによる デフォルトコンフィグ更新完了	スケジュールによる「コンフィグデフォルト指定選択」 動作命令をすべて起動した。
製品名追加	製品名を追加した。
製品名削除	製品名を削除した。
製品名変更	製品名を変更した。
HTTP アクセス変更	HTTP アクセス設定を変更した。
HTTP 認証情報追加	HTTP 認証情報を追加した。
HTTP 認証情報削除	HTTP 認証情報を削除した。
CMS 起動	CMS が起動した。
CMS 停止	CMS が停止した。
RAID エラー発生	RAID エラーが発生した。
RAID エラー復旧	RAID エラーが復旧した。
SPARE エラー発生	SPARE エラーが発生した。
SPARE エラー復旧	SPARE エラーが復旧した。
DISK エラー発生	DISK エラーが発生した。
DISK エラー復旧	DISK エラーが復旧した。

FutureNet CMS-1300 ユーザーズガイド(管理者編) Ver.2.0.0 対応版  
2020年7月版  
発行 センチュリー・システムズ株式会社  
Copyright © 2020 Century Systems Co., Ltd. All rights reserved.